



## 視 察 研 修 等 報 告 書

令和5年9月19日

坂井市議会

議長 辻 人志 殿

会派名

志 政 会

代表者名

古屋 信二

1. 日 時 令和5年8月21日（月）～23日（水）
2. 視察研修先 21日（月）下関市役所  
〒750-8521 山口県下関市南部町1番1号 083-231-1111（代表）  
22日（火）NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト  
〒722-0031 広島県尾道市三軒家町3-28 080-66323-9921  
23日（水）岡山市役所  
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号 086-803-1000（代表）
3. 視察研修内容 21日（月）しもまちアプリについて  
22日（火）尾道空き家再生プロジェクトについて  
23日（水）AIを活用した健康見える化事業について
4. 参 加 者 古屋 信二、上坂 健司、後藤 寿和

### 5. 内 容 詳 細

#### 【21日（月）しもまちアプリについて】

下関市総合情報発信アプリケーション『しもまちアプリ』は、まちづくり協議会と下関市が市民に向けた情報発信共同事業として、令和2年度から提供開始した。市政情報だけでなく、地域の情報や日常生活に便利で役立つコンテンツを盛り込んだ下関市民のためのアプリケーション。

ホームページでの情報発信だと市民が積極的に情報を取りに来ないといけなため、アプリケーションを開発して活用することによって、若い世代をはじめとした多くの市民が簡単かつタイムリーに、また必要とする情報を選ぶことで本当に欲しい情報が個人のスマートフォンに通知されるようになる。

令和2年度から配信されたアプリの累計DL数は令和5年7月末日現在で、1,240 DL。

#### アプリの概要

- しもまちカレンダー : 市・地域のイベント、小中学校の行事
- ゴみの日カレンダー : 地域別のごみの日カレンダー、ごみの出し方ガイド
- しもまち便利帳 : 公共施設予約、休日当番医、妊娠・出産、子育て ほか
- 防災 : 防災マップ、避難所情報、しものせき緊急情報自動案内
- まちづくり協議会情報 : まち自慢マップ、まちづくり協議会ホームページほか
- しもまちスタンプラリー : スマホを使って市内を巡るデジタルスタンプラリー
- 道路異常通報 : 道路の破損等をスマホで撮影し写真で通報する仕組み
- 電子回覧板 : 自治会行事及び広報物等（電子データの添付可）の回覧、出欠等の回答とりまとめ、市から自治会経由で配信可

#### 課題と今後の取り組み

##### 【課題】

- しもまちカレンダー掲載情報のうち『学校行事』の反映が5～6月にずれ込む
- ごみの日カレンダー掲載情報のデータ取込の効率化

##### 【今後の取り組み】

- 電子回覧板機能のPRと利用普及

#### 【22日（火）尾道空き家再生プロジェクト】

尾道市の中でも特にユニークな環境をもつ山手地区においては、空洞化と高齢化が進み、空き家が数多く存在している。その中には建築的価値が高いもの、不思議で個性的なもの、景観が優れているもの等あるが、残念ながら住人を失った家々の傷みは年々加速が進んでいる。尾道空き家再生プロジェクトではそれらの空き家を再生し、暮らしを楽しむ人や、空き家を上手に再生させてお店を営みたい方々に紹介し、移住定住につながる活動を続けている。

尾道市と共同で『尾道市空き家バンク』もスタートさせた。行政だけでは、困難な部分を補い定住促進、移住者支援を行っている。

また、再生に向けて5つの柱を軸に展開を行っている。

1. 空き家 × 建築
2. 空き家 × 環境
3. 空き家 × コミュニティ
4. 空き家 × 観光
5. 空き家 × アート

主な活動内容として、

- 尾道建築塾 : 尾道建築の魅力再発見と再生現場への参加ワークショップ
- 尾道空き家談義 : 空き家情報や再生ノウハウ交換、空き家再生の作戦会議など
- 現地蚤の市 : 空き家に残された不用品のリサイクル
- まちづくり発表会 : 研究者の視点から尾道斜面地の抱える問題について発表
- 尾道空き地再生ピクニック : 解体したら二度と立てられない更地になった空き地の活用方法を考えイベントの実施

#### 【13年間の活動移住支援の成果】

- バンクの空き家提供 : 56軒→180軒
- 空き家バンク新規利用者数 : 1,000人を超える
- 制約件数 : 1,000人を超える
- 成約件数 : 130軒以上
- 移住定住者 : 150人以上
- 移住者の年齢層 : 20～30代が大半

#### 【見えてきた課題】

- 大型の空き家をどうしていくか
- 地方における、やりがいのある若者の仕事不足
- 商店街の賑わい創出
- 滞在型の観光客をどう増やしていくか
- 文化財級の空き家をどうしていくか  
(人口が半減し税収が減る中、行政主体の文化財保護には限度がある)
- 文化財の修復技術者や担い手不足
- 既存不適格及び条件不利地における大型空き家の再生

#### 【見えてきた課題からの取り組み、】

尾道ゲストハウス『あなごのねどこ』による成果

- 大型の空き家を事業化し、若者の仕事づくり  
(現在パート・アルバイトも含め移住者を20名ほど起用)
- 商店街に宿泊拠点ができることで町全体の活性化  
(既存の銭湯や飲食店、レンタサイクルへの経済効果、地元の祭りの賑わい創出)
- 外国人観光客や学生など今まで宿泊していなかった層の観光客の増加  
(尾道市で外国人観光客が前年比1.6倍、あなごのねどこでも2倍増加)

尾道ゲストハウス『みはらし亭』による成果

- 大型の空き家を事業化し、若者の仕事づくり  
(現在パート・アルバイトも含め移住者を7名ほど起用)
- 車の入らない坂の町の活性化

- 500 人を超える支援やボランティアによる共有財産の再生活用
- 官民連携の協働のまちづくり
- 若手の地元職人の起用と担い手の育成
- 外国人観光客や学生など今まで宿泊していなかった層の観光客の増加

### 【23日（水）AIを活用した健康見える化事業について】

特定健診の結果を『健康リスクの見える化』として、健診結果からAIが算出した将来の健康リスクを見える化することで、健康に関する意識を高める。アプリを利用し、特定健診の結果からAIが一人一人に適した生活習慣改善メニューを提示し、効果的な保健指導を実施していく。

令和元年～2年度は㈱タニタヘルスリンクが東京大学 COI の MIRAMED アプリを提供し、令和3年～4年度はFiNC社のFincアプリを提供した。

#### 【実施内容】

- 特定健診の結果から生活習慣病リスクのある者を抽出し、希望者に対して説明会を実施
- アプリ利用者は期間中、アプリに提示される取り組みメニューを実践し生活習慣改善を図る。プッシュ通知等で継続利用を支援。
- 令和元年～3年度は事業参加者におかやまケンコー大作戦のケンコーポイントを付与。
- おかやまケンコーだいさくせんと事業は別だが、本事業の参加者それぞれに相互の事業を紹介し参加者増を図る。

#### 事業対象者と事業対象人数（カッコ内は実際の参加者）

- 令和元年度：特定検診の結果、特定保健指導対象者となった者 2,137 人（37 人）
- 令和2年度：R1年度対象者に加えて、非肥満者のうち血圧・血統・脂質が基準を超えている者 2,784 人（54 人）
- 令和3年度：R2年度対象者に加えて、腹囲・BMIが基準を超えている者 10,764 人（229 人）
- 令和4年度：R3年度と同じ基準で、試験的に他保険者 5 名参加 11,270 人（260 人+5 人）

本事業は地方創生推進交付金にて令和4年度までの計画で実施された事業であり、令和5年度は事業参加者へのヒアリングなどを実施し、今後の事業展開について検討していく。

## 6. 所見・感想

### 【古屋 信二】

下関市 『しもまちアプリについて』

下関市の情報発信は主に市報やHPで行われていたが、若い世代においては市政情報に対する興味が薄く、そこで普及率が高いスマートフォンのアプリを活用することによって市民に積極的に各種情報発信する着眼点は素晴らしいと思った。当市でもLINEを活用したアプリがあるが下関市を見習いバージョンアップしていただきたいものだ。

また、まちづくり協議会の取り組み紹介や各地域のまち自慢情報も発信していて地域課題の解消や地域の活性化に向けた活動を発信して郷土愛を醸成している点は関心である。

尾道市 『尾道空き家再生プロジェクトについて』

NPO 法人尾道空き家再生プロジェクトの代表豊田雅子さんはこの地域のキーマンであり、リーダーシップを発揮されていた。仲間づくり、移住プロモーション、空き家を再生する合宿など少子高齢化・人口減少に正面から取り組み、課題解決にバイタリティー溢れている。マンパワーグループの構築や情報発信ノウハウは当市においても垂涎で、よい人材が現れてほしいものだ。

7年前から長年活動しており、コミュニティ、環境、建築、観光、アートの5つの柱を軸に活動することで持続可能なプロジェクトとしていることは大変素晴らしい。また、この尾道市の市民性・土地柄としていろんな人を受け入れやすいというのもプロジェクトが続く一因ではないかと思う。

岡山市 『AIを活用した健康見える化事業について』

健診結果からAIが算出した将来の健康リスクを見える化をすることで、健康に関する意識を高め具体的な一人ひとりに適した生活習慣改善メニューの提示と効果的な保健指導を実施する施策である。医療費の軽減につなげ市民の健康意識が高まっているか伺った。令和元年からの民間委託事業で事業者が一度かわっておりアプリの利用者に対する参加者も低迷していた。行政規模からすると不十分だと感じた。これからの時代にふさわしい事業ですが、更なる実証研究し進化してほしいと感じた。

### 【上坂 健司】

下関市 『しもまちアプリについて』

下関市では暮らしに便利な公式アプリ「しもまちアプリ」の提供を行っている。下関市総合情報発信アプリとして、暮らしに役立つ地域情報や、観光情報などを手軽に入手でき、便利である。主なコンテンツは、しもまちカレンダーとして、各種イベントや小中学校の年間行事の掲載、ごみの日カレンダー、避難所マップやハザードマップ、命のダイヤルなどがある。特徴として、下関市内のまちづくり協議会ホームページへのリンクもあり、地域情報を

素早く入手でき便利である。この点は、まちづくり協議会が率先垂範し「しもまちアプリ」を構築されたため市民一人ひとりが繋がりを感じることもできるアプリである。

#### 尾道市 『尾道空き家再生プロジェクトについて』

瀬戸内海の穏やかな海と山々に囲まれた街、尾道。尾道固有の町並みや建物はそこで生活されてきた暮らしの歴史・文化である。その中でも特に500軒余りの山手地区は現在、空洞化と高齢化が進み、空き家が数多く存在している。その中には、建築的価値が高いもの、個性的なもの、景観が優れているもの等さまざまな魅力をもったものが含まれている。

尾道空き家再生プロジェクトではそれらの空き家を再生し、新たな活用を模索している。尾道らしいまちづくり活動を展開していることは大変すばらしいと感じた。

#### 岡山市 『AIを活用した健康見える化事業について』

少子高齢化とともに増大する医療費の課題解決のため、岡山市では市民に生活習慣の改善を促すAIを活用したNECの健康結果予測シミュレーションと最新のヘルスケアアプリを組み合わせた支援策を展開した。特定健診を受診して、特定保健指導の対象となった国民健康保険加入者に、過去3年間の健診結果をAIで解析し、現在の生活習慣を継続した場合の将来リスクを可視化した上で、日々実践すべき改善メニューを示すためのスマートフォンアプリを提供した。当初は、利用者が伸びず苦労したが、さまざまな試みの中でアプリを充実させ「生活習慣病を改善したい」、「今後もこの健康事業に参加したい」市民の理解の中、行動変容を促す政策は坂井市に於いても検討していただきたい。

#### 【後藤 寿和】

#### 下関市 『しもまちアプリについて』

下関市の『しもまちアプリ』は行政が市民に向けた情報発信ツールとしては、一つの完成形と感じられました。ホームページから積極的に情報を取りに来ない方々に対して、プッシュ通知で欲しい情報、必要な情報を選んで情報を手に入れる形としては、非常に優秀なツールであった。また、アプリから情報を取ることで、市のホームページの閲覧数も大幅に増えたそうです。令和4年度年間で99万7千回のアプリの立ち上げもあり、市民がこのツールを活用していることもよくわかりました。

また、まち協と共同で行うことで、自分たちの住む町の伝統や文化など再認識できるようになったと話していました。

本市もいろいろなアプリを使ってデジタル化してきているが、プラットフォームがバラバラなので使いづらい。プラットフォームを一つにすることで使いやすさや利便性も高まり、可能性も広がってくると感じられた。

本市は公式LINEを活用していくと話していたので、ぜひ参考にしていってほしいと感じました。

## 尾道市 『尾道空き家再生プロジェクトについて』の感想

尾道市の空き家再生プロジェクトは本市の空き家事情とは全く違っていたが、参考になるものは沢山とあった。

斜面にひしめくように建つ住宅の多くは、一度壊すと次に家を建てられないばかりか、人しか通れない細い道では駐車場にもできず、畑か花壇にするか空き地のまま使い道がないが、固定資産税はかかってくる。また解体にも費用がかかる、車も入れず下水工事もままならない斜面では、トイレは汲み取り式のままの古い住宅。地元の不動産業者からも「負の遺産」として敬遠されていると話してくれた。

しかし、斜面の限られた土地に建てられた住宅や別荘は、戦災や大きな災害を受けず現存し、人の知恵と工夫、職人の技術を今に伝え、坂の町ならではの景観をつくりだしているのも事実。見方を変えれば、尾道の特徴づける宝として捉え、再生して息を吹き返せば、町の財産となると感じたそう。みんなで知恵とアイデアを出し合って再生し、移住定住者も増え、また相談件数や見学ツアーも増えているとのこと。

そのように再生していった空き家は若者が中心となってお店や人が集う場などに変化していき、何か懐かしい昭和初期の香りがするような街並みや住んでいる人たちからも感じられた。

また、会場の大広間の御天井は協賛広告で埋め尽くしており、今なお協賛社を募っていると話していた。これは面白いアイデアだと感じた。

空き家を売って、リフォームして坂井市に来ませんか？ではなくて、空き家の特性を考えて、どのように再生していき、そこに住む人や仕事する人のニーズに合う再生の方法や、伝統文化を継承していく手法は参考になった。

## 岡山市 『AIを活用した健康見える化事業について』

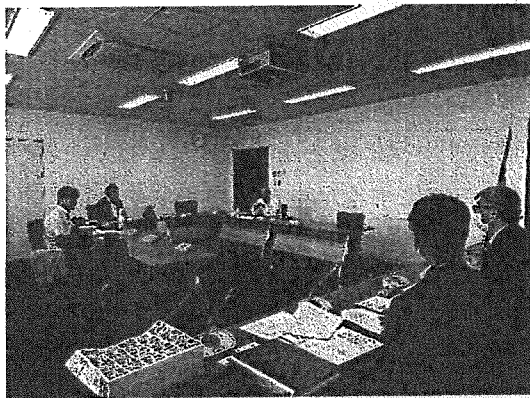
特定健診の対象者が本事業の対象者ということもあり、思ったように参加人数が伸びなかったのかなと感じた。内容は健康ヘルスケアアプリを活用して、AIが提示する内容を実施していくのですが、よくよく聞いていたら、私のiPhoneにもインストールされているFiNCの健康サポートヘルスケアアプリだった。

確かに使い慣れてくると楽しく感じてくるが、継続できるかどうかの本人の意欲やモチベーションを持続できるかもカギになるのではないのかなと感じた。

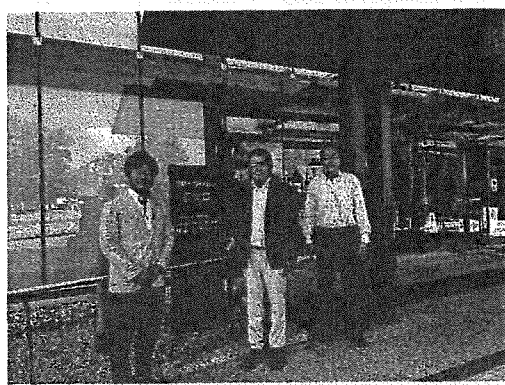
本事業は地方創生推進交付金にて令和4年度までの計画で実施された事業であり、令和5年度は事業参加者へのヒアリングなどを実施し、今後の事業展開について検討していくと答えていたが、あまり続けていきたくないような雰囲気を感じた。

しかしながら、可能性のあるアプリケーションであるので、本市としても特定検診だけではなく、健康都市宣言をしている本市として活用法を考えていくと可能性も高まると感じた。

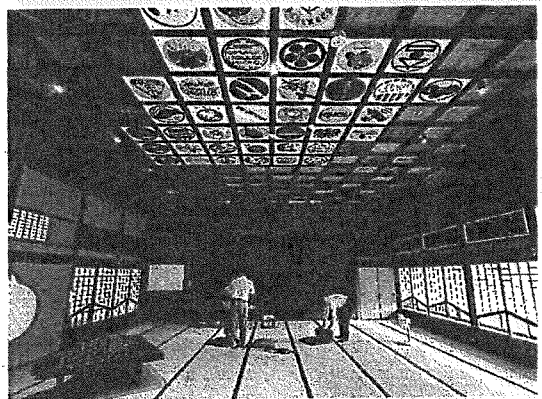
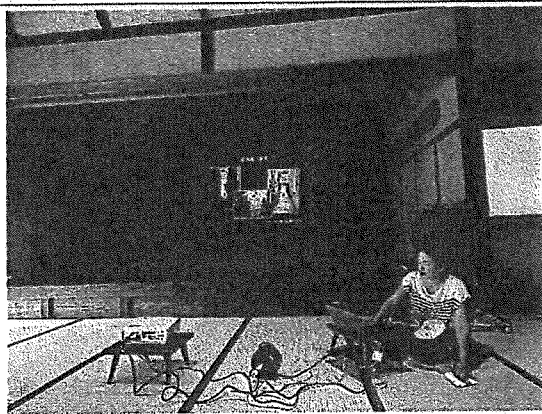
7. 添付書類



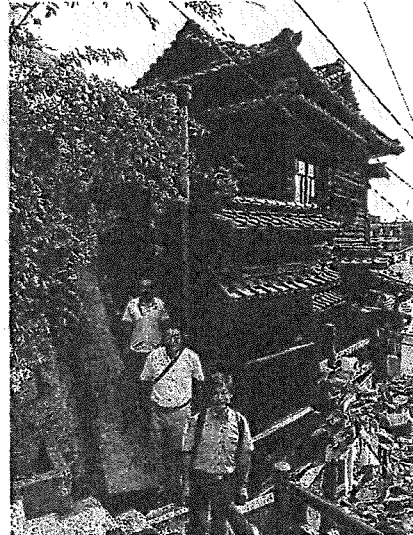
下関市役所 研修



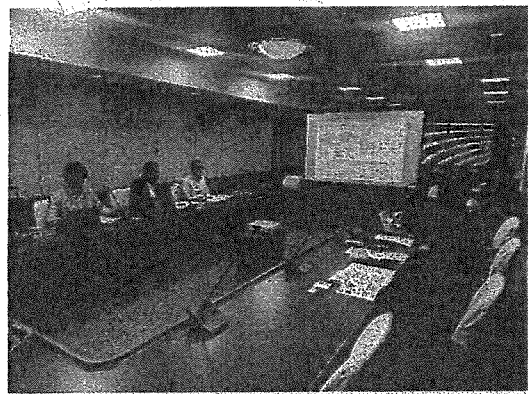
下関市役所前



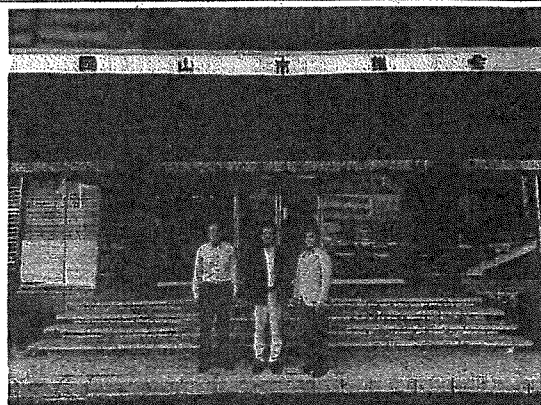
尾道空き家再生プロジェクト研修  
会場の大広間の天井は協賛広告で埋め尽くしている。



尾道空き家再生プロジェクトの代表格の再  
生物件通称『尾道ガウディハウス』



岡山市役所 研修



岡山市役所議会棟

会派内供覧

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|